

# 逐條土地收用法資料

(二〇)

高坂孝三

第五十五條 土地ノ使用ヲ三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地

ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルト

キハ所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空

間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此

ノ限ニ在ラス

## 一、空間ノ使用ト土地收用法

(五二議 昭和二年二月十九日  
貴族院特別委員會)

(前出第一條資料一五參照)

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政

廳ノ許可ヲ得スシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新

築、改築、増築又ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シ

タル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請

求スルコトヲ得ス

## 一、土地細目公告後施設シタル物件ノ

損失補償

(行裁大正十四年第一〇七號  
昭和六年七月二十日宣告)

(要旨) 收用土地細目公告後行政廳ノ許可ヲ得スシテ施設

シタル收用地内ノ物件ニ付テハ損失ノ補償ヲ請求スルコト

ヲ得サルモノトス

(判決理由) 略

註、大正十三年五月八日宣告同十二年第七號事件判決同

趣旨

## 二、作物ノ栽植ト物件ノ附加増置

(行裁大正三年第一六三號  
同七年七月三十一日宣告)

(要旨) 耕地ノ通常ノ用法ニ依リ作物ノ栽植ハ土地收用法  
第五十六條ノ物件ノ附加増置ニ該當セス

(判決理由) 法第五十六條ハ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通  
知ノ後行政廳ノ許可ヲ得ズシテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物  
ノ新築、改築、増築又ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタ  
ル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關スル損失ノ補償ヲ請求スルコ  
トヲ得スト規定シ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ト雖  
工作物ノ小修繕ハ自由ニ之ヲ爲シ其ノ損失ノ補償ヲ請求シ得ル  
ニ依リ之ヲ見レハ土地ノ用法ニ從ヒ耕地ニ作付ヲ爲スカ如キハ  
亦同法ニ該當セサルモノト云ハサルヲ得ス而シテ其ノ損失補償  
ハ裁決書ニ定メタル土地收用ノ時期ニ依リ之ヲ定ムヘキモノニ  
シテ右ノ時期タル大正五年七月十五日ニ於テ主文第一項第二號  
ニ掲ケル原告ノ耕作地ニ稻ノ存在シタルコト及該稻カ收用ノ時  
ニ於テ未タ成熟セサリシコトハ當事者間爭ナキ所ナルヲ以テ其  
ノ收用ニ依リ損失ヲ受ケタルモノト認メサルヲ得ス然レニ被告  
カ該損失補償ノ請求ヲ排斥シタルハ違法ニ付右原告ノ權利ヲ傷  
害シタルモノナリ

第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ土地ニ立入  
リ測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ホシタル

損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

一、測量検査ノ爲ノ障害物除却ニ因ル

損失ノ補償

(一四議明治三十三年二月十三日  
貴族院)

(要旨) 土地收用法第十一條ニ依リ建築物ヲ除却セラレタ  
ル者ハ同法第五十七條ニ依リ損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ  
得

註、前出第十一條資料ニ參照

第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業  
者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係  
人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ

註、工事計畫ノ變更ニ關シテハ前出第十九條資料五參照

第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方  
長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一  
條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七章 收用ノ效果

第六十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡

スヘシ

左ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得

一 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ

二 起業者カ過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキ

三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ

四 起業者カ補償金拂渡ノ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ

### 一、本條ノ法意

(大審大正三年(オ)第二一九號  
同三年十二月二十二日言渡)

(要旨) 土地收用法第六十條ニ規定スル補償金ノ拂渡ト供託トハ收用ニ必要ナル事項トシテ起業者ノ爲メニ同一ノ效用ヲ爲シ其ノ供託ハ當ニ拂渡ニ代ハルヘキモノナルコト明

ナレハ同條ノ規定ハ第一項ニ依リ起業者カ爲スヘキ補償金拂渡ノ債務ハ第二項ニ依リ爲シタル供託ニ依リ其ノ供託金額ノ限度ニ於テ之ヲ免レシムルノ法意ニ出テタルモノト解スヘキモノトス

### (判決理由)

按スルニ土地收用法ニ依リ土地物件ヲ收用シタルトキハ起業者ハ第六十條第一項ニ依リ收用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘク同條第二項ノ各號ニ掲ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得ヘク其收用ニ係ル土地物件ニ付テハ起業者ハ第六十一條ニ依リ收用ノ時期迄ニ之カ引渡ヲ受ケ第六十三條第一項ニ依リ收用ノ時期ニ於テ所有權ヲ取得スヘク收用審査會ノ裁決ニ不服ナル者ヨリ訴願又ハ訴訟ノ提起アリタルトキト雖モ第八十三條ニ依リ事業ノ進行及土地ノ收用ヲ妨ケラルルコトナシ然リ而シテ起業者カ收用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ裁決ハ其效力ヲ失ヒ從テ收用ノ時期損失ノ補償金額等定マラサルニ至ルヲ以テ收用ノ目的ヲ達スルコト能ハサルモノトス是ニ由テ之ヲ觀レハ同法第六十條ニ規定スル補償金ノ拂渡ト供託トハ收用ニ必要ナル事項トシテ起業者ノ爲メニ同一ノ效用ヲ爲シ其供託ハ當ニ拂渡ニ代ハルヘキモノナルコト明白ナレハ同條ノ規定ハ第一項ニ依リ起業者カ爲スヘキ補償金拂

渡ノ債務ハ第二項ニ依リ爲シタル供託ニ依リ其供託金ノ限度ニ於テ之ヲ免レシムルノ法意ニ出テタルモノト解セサルヲ得ス而シテ同條第二項ノ第一號及第二號ハ民法第四百九十四條ト其規定ヲ同ウスルカ如キモ土地收用法ハ行政法規ニ屬シ固ヨリ民法ニ附屬スル法規ニ非サルヲ以テ之ニ民法ト相等シキ規定存スルモ敢テ怪シムニ足ラス(中略)又其第三號但書ニハ起業者ハ請求ニ依リ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘキ旨ヲ定メタルモ同號ハ起業者カ拂渡スヘキ補償金額ニ付不服ヲ主張シ單ニ自己ノ意志ノミニ基キ供託ヲ爲シ得ル場合ナルヲ以テ特ニ補償金ヲ受クヘキ者ヲ保護スルノ必要アルカ爲メニ但書ヲ設ケタルモノニシテ之ニ依リテモ却テ同號ノ場合ニ限リ見積金拂渡ノ債務ヘ之ヲ免レシメサルモ補償金拂渡ノ債務ハ同號ノ場合ニ於テモ又爾餘各號ノ場合ニ於テハ勿論供託ニ因リ之ヲ免レシムルノ法意ナルコトヲ知ルニ足ルヘシ又其第四號ハ補償金拂渡ノ差押アリタル場合ニ供託ヲ許シ其差押ハ第三債務者タル起業者ニ對シ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シタルモノナリト雖モ起業者カ補償金ヲ供託シタルトキハ其補償金ハ供託所ニ於テ之ヲ保管シ供託法ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ受取ルヘキ者ニ還付スヘキモノニシテ必スシモ債務者ニ支拂ハルヘキモノニ非サルヲ以テ此場合ニ於テモ供託ニ因リ拂渡ノ債務ヲ免レシムルノ法意ナルコトヲ否定スヘカラ

## 二、補償金ノ拂渡又ハ受領ト出訴權

(一) (行裁大正二年第二五號)  
同五年四月十四日宣告

(要旨) 起業者カ裁決ニ不服ナルノ故ヲ以テ補償金ノ拂渡ヲ怠ルトキハ裁決ハ其效力ヲ失フヘキカ故ニ補償金ノ拂渡ハ起業者ヨリ觀レハ行政訴訟ノ提起又ハ維持ニ缺クヘカラル要件ナリト云ハサルヘカラス然シテ土地所有者又ハ關係人カ補償金ヲ受領スルモ直チニ裁決ニ服シタルモノトスルノ效力ナク從テ其ノ行政訴訟提起ノ權利ヲ消滅セシムヘキニ非ス

(判決理由) 本件原告カ供託金ヲ受領シタルノ事實ハ當事者間爭ナキ所ニシテ其ノ受領ニ因リテ裁決ヲ取消ヲ求ムル訴權ハ消滅ニ歸スルヤ否ヤノ爭點ニ付キ審按スルニ收用又ハ使用ニ對スル補償金ノ拂渡ニ關シテハ土地收用法第六十條第一項ニ起業者ハ收用審査會カ其ノ裁決ニ指定シタル收用マハ使用ノ時期迄ニ拂渡ヲ爲スヘシト規定シ又第六十二條ハ起業者カ右ノ時期迄ニ其ノ拂渡ヲ爲ササルトキハ裁決ハ其ノ效力ヲ失フト規定シ二條共ニ裁決ニ不服アル場合ト否トヲ區別スルコトナシ而シテ收用審査會ノ裁決ニ對スル行政訴訟ニ付テハ第八十二條第二項ニ

「收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得」トアリ是レ亦訴訟ノ提起ニ關シテハ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ外何等ノ條件ヲ必要トセサルハ明ナリ素ト此ノ行政訴訟ハ收用審査會ノ裁決ヲ違法ナリトシテ争フモノニシテ即チ裁決ノ存在ハ訴訟ノ基本ナリ然ルニ起業者カ裁決ニ不服ナルノ故ヲ以テ補償金ノ拂渡ヲ怠ルトキハ裁決ハ自ラ其效力ヲ失ヒ却テ行政訴訟提起ノ基本缺如スルニ至ルヘシ故ニ補償金ノ拂渡ハ起業者ヨリ觀レハ寧ロ行政訴訟ノ提起又ハ維持ニ缺クヘカラサル要件ナリト云ハサルヘカラス而シテ拂渡ハ双面的行爲ニシテ其法律上ノ效果ハ相手方ニ於テ受領スルコトアリテ始メテ生スルモノタルハ論ナク果シテ然ラハ土地所有者又ハ關係人カ補償金ヲ受領スルハ素ヨリ裁決ニ服シタルモノトスルノ效力ナク從テ又行政訴訟提起ノ權利ヲ消滅セシムヘキニアラス本件ニ於テ起業者タル被告從參加人ハ土地收用法第六十條第二項ニ依リ補償金ヲ供託シ土地所有者タル原告ハ之ヲ受領シタルハ事實ニシテ元來供託ナルモノハ右規定ニ掲クル場合ニ於テ之ヲ爲スヘク起業者ハ單ニ土地所有者カ裁決ニ服セサレハトテ供託ヲ爲シ得ルモノニアラサルノミナラス補償金ノ拂渡ニ代フル便法ニ過キサルヲ以テ補償金ノ供託又ハ其補償金ノ受領ハ拂渡以上ノ效力ヲ生スヘキニ非ス

法 令

故ニ原告カ供託金ヲ受領スルニ當リ異議ヲ留保セサレハトテ之ヲ以テ收用自體ニ服シ又ハ裁決ノ取消ヲ求ムル訴權ヲ拋棄シタリト解スヘカラス

(二) (行裁明治三十七年第二〇八號  
同三十八年二月十日宣告)

(要旨) 土地所有者カ收用審査會ノ裁決シタル補償金全部ノ拂渡ヲ受ケタリトスルモ係争物ヲ收用スヘキコトヲ承諾シ行政訴訟ヲ拋棄シタルモノト認ムルヲ得ス

(判決理由) 被告從參加人ハ原告カ收用審査會ノ裁決シタル補償金全部ノ拂渡ヲ任意ニ受ケタル以上ハ原告ハ本件係争物ヲ收用スヘキコトヲ承諾シタルモノニシテ即チ本訴ヲ拋棄シタルモノナリト云フモ收用審査會ノ裁決ハ其執行ヲ停止セス從參加人ハ自己ノ事業ノ爲メ保争ノ物件ヲ使用シツツアルニ對シ原告カ補償金ヲ受領シ其補償額ニ對シテハ別ニ通常裁判所ニ於テ保争中ニ係リ而シテ本訴ハ尙ホ嚴格ナル方式ヲ以テ繫屬セルモノナレハ之ヲ拋棄シタルモノト認ムルヲ得ス

三、所有權移轉ノ假登記ト補償金請求權利者

(大審昭和九年(オ)第二〇三一號  
同十年三月五日言渡)

(要旨) 假登記其ノモノハ本登記ノ如キ對抗力ヲ有セサル

ヲ以テ所有權移轉ノ假登記アル土地ノ收用ニ於テハ收用ノ手續ハ總テ從來ヨリ所有者タル假登記義務者ヲ以テ所有者トシテ遂行スヘク補償金ノ拂渡亦是ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス

(判決理由) 假登記ハ他日本登記ノ爲サルルコトヲ條件トシテ假登記權利者ノ爲メニ關係的處分禁止ノ效力ヲ生ス之ヲ詳言スレハ假登記後當該不動産ニ付第三者トノ間ニ行ハルル各般ノ物權變動(所謂中間處分)ハソレ自體有效ナルヲ失ハザルト共ニ一旦本登記カ爲サルルニ及ヒテ此等物權變動ハ本登記權利者ニ對抗スルヲ得サルモノ之ヲ假登記ノ效力ト爲ス今土地收用法ニ依ル收用ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲メ其ノ所要ノ土地ヲ收用スル必要アル場合ニ行ハルルモノナルカ故ニ當該土地ニ付已ニ或人ノ爲メニスル所有權移轉ノ假登記カ存スル場合ト雖之ヲ行フヲ得ルハ論ナキノミナラス收用後右ノ假登記ニ對スル本登記カ或ハ爲サレタレハトテ之カ爲ニ俄ニ夫ノ關係的處分禁止ノ效力ヲ發生シ爰ノ收用ハ之ニ對抗スルヲ得サルニ至ルト云フカ如キ道理ノ有ルヘカラサルハ公益上收用ナル制度ヲ認メタル法意ニ照シ殆ト自明ノ數ナラスンハアラス否正シク云ヘハ右ノ本登記ノ如キハ抑之ヲ爲スヘキ又爲シ得ル限リニアラス假登記手續上何等カノ經緯ニ依リ偶々斯カル本登記カ爲サレタレハト

テ開ハ固ヨリ寸斷アルコト爲シ蓋シ本登記ナルモノハ假登記ト相俟テ關係的處分禁止ノ效力ヲ發生スレハコン之ヲ爲スノ意味モアレ今ヤ收用ニ因ル物權變動(一ノ中間處分)ノ絕對性ニ壓倒セラレテ夫ノ效力ノ如キハ又發生ノ餘地ヲ留メザルニ於テ本登記ヲ爲スハ此際一片徒爾ノ舉ニ過キサレハナリ  
若シ夫レ以上假登記ノ爲サレアル土地ニ對シテハ何人ヲ所有者トシテ收用手續ヲ遂行スヘキヤト云フニ他ナシ假登記ソノモノハ本登記ノ如キ對抗力ヲ有セス是レ當院ノ判例トスルトコロナリ假登記アル場合ニハ本登記ノ果シテ爲サルルヤ否ヤヲ見定メテ後始メテ收用ノ事ニ從フヘシテフ趣旨ノ規定アレハ格別第三者ヨリ之ヲ觀レハ從來ヨリ所有者タル假登記義務者カ取リモ直サス依然タル所有者ナルニ於テ凡ソ收用ノ手續ハ此人ヲ以テ所有者トシテ之ヲ遂行スヘキコト何ノ疑カコレ有ラム而シテ補償金ノ拂渡亦是ニ對シテ之ヲ爲スヘキハ則チ其必然ノ結果ニ外ナラス但假登記アル場合ヲ以テ補償金供託(土地收用法第六十條第二項)ノ一例ニ數フヘキヤ否ヤ及ヒ所有權移轉ノ當事者タル假登記權利者ト假登記義務者間ノ關係ニ於テ此ノ享ケタル補償金ハ竟ニ彼ニ歸スヘキモノナラサルヤ否ヤ這ハ一ハ則チ立法論ニシテ他ハ則チ内部ノ關係總テ本件ト沒交渉ナルハ素ト多ク云フノ要ナカラム

原審確定ノ事實ニ從ヘハ上告人先代ハ大正十一年五月二十三日  
訴外向亦次郎ヨリ本件土地ヲ買受ケタリトシテ翌二十四日其旨  
ノ假登記ヲ爲シタルカ一方起業者タル上告人ハ同年五月二十九  
日以降右土地ニ付キ登記簿上ノ所有名義人タル前記向亦次郎ヲ  
所有者トシテ收用手續ヲ遂行シ同年十一月十五日收用審査會ノ  
裁決ヲ經タル上右裁決ニ於テ定メタル收用時期(同年十二月三  
十一日)ニ先チ同年十二月十一日本件土地ノ補償金ヲ前記向亦  
次郎ニ拂渡シタルトコロ翌年六月二十九日ニ至リ上告人先代ハ  
當該假登記ニ對スル本登記ヲ經由シタリト云フニ在リ夫レ此事  
實ノ下ニ於テ上告人カ本件訴旨トシテ主張スルトコロ第一審以  
來時ニ出入アリト雖畢竟假登記ニ對シテ爲サレタル本登記ノ趣  
及效ヲ以テ唯一ノ樞軸トシテ其ノ構論立言悉ク皆茲ニ出テサル  
ハ無シ而モ此樞軸ノ果シテ把持ニ勝ニルヤ否ヤハ則チ前叙ノ判  
示ニ盡クセリ

#### 四、土地所有者又ハ關係人不明ノ場合

##### 補償金ノ供託

(一) (大審明治四十年(オ)第一三八號)  
同四十五年五月一日言渡)

(要旨) 起業者ニ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知  
スルコト能ハサル場合ニ於テハ形式上土地所有者及關係人

ト看做サルヘキ者ニ對シテ諸般ノ手續ヲ履行シ以テ收用ノ  
效果ヲ有セシムヘク然シテ收用審査會ノ裁決ノ形式上對手  
トセラレタル者ニ對シ起業者ヨリ補償金ノ供託ヲ爲シタル  
トキハ土地收用法第六十二條ヲ適用シテ裁決ノ效力ヲ失ハ  
シムヘキニ非ス

(判決理由) 按スルニ土地收用法ニ依ル土地ノ收用ハ土地所有  
者及關係人ヲシテ各其權利ヲ喪失セシムル效果ヲ生ス(中略)  
故ニ收用ノ手續モ直接ニ土地所有者及ヒ關係人ニ對シテ行フヲ  
通例トスルモ其者等ニ對シテ直接ニ收用ノ手續ヲ行フニ非サレ  
ハ收用ノ效果ヲ收ムルコト能ハサルモノトスルトキハ起業者ニ  
過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサル場合  
ニ於テハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ヲ遂行スルニ由ナキ結果ヲ  
生スルヲ以テ斯ノ如キ場合ニ於テハ形式上土地所有者及關係人  
ト看做サルヘキ者ニ對シテ諸般ノ手續ヲ履行シ以テ收用ノ效果  
ヲ有セシムルコトハ同法ノ認ムル所ナリ然レハ原判決カ收用審  
査會ノ裁決ノ形式上對手トセラレタル大串勝次ニ對シ被上告會  
社ヨリ補償金ノ供託ヲ爲シタルコトヲ認メ又同會社カ同人ヲ對  
手ト爲シタルハ其過失ト認ムヘカラサル理由ヲ判示シタル以上  
ハ同法第六十二條ヲ適用シテ裁決ノ效力ヲ失ハシムヘキニアラ

ス

(一) (内務明治四十二年七月二日特由第一) 七號京都府知事宛土木局長同答)

(要旨) 收用スヘキ土地ノ所有者ハ存否不明ナルモ土地臺帳ニ所有者名登録シアルトキハ起業者ハ土地收用法第二十二條第二項後段ニ基キ收用審査會ノ裁決ヲ求ムヘク而シテ裁決後補償金ハ同法第六十條第二號ニ依リ供託スルヲ相當トス

(原文) 本年六月二十二日土第七六四九號ヲ以テ土地收用法ニ關シ疑義ノ撤回相成候處

第一項 御意見ノ通ニテ可然存候

(京都府知事伺) 一、今般京阪電氣鐵道株式會社ニ於テ軌道敷設用地トシテ收用スヘキ土地ノ内紀伊郡深草村大字深草小字ススヘキ三十九番地ハ土地臺帳ニ所有者善明院ト登録セラレアルモ善明院ト稱スル寺院無之ニヨリ買收協議ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ收用上ノ手續指示相成度旨該會社出願ニヨリ租稅代納人山上忠齋ニ就キ事實調査ヲ遂ケ候處該寺院ハ維新ノ際廢寺處分ヲ受ケタル旨ヲ以テ別紙ノ通證明書及證據書類ヲ提出候ニ付調査スルモ廢寺處分案ハ不分明ニ候共要スルニ土地臺帳ニ登録有ル以上ハ土地收用法第二十二條第二項後段即チ協議ヲ爲スコ

ト能ハサルトキノ明文ニ基キ本府收用審査會ノ裁決ヲ求メシメ而シテ審査會ハ土地臺帳記名者ニ對シ裁決ヲ爲シ補償金ハ同法第六十條第二號ニ依リ供託セシメ可然哉

五、本條第二項第二號ノ法意

(大審大正三年(オ)第一九號) 同三年十二月二十二日言渡)

(要旨) 土地收用法第六十條第二項第二號ニ所謂過失ナクシテ補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサルトキトハ當ニ事實上補償金ヲ受クヘキ者ヲ確知スルコト能ハサル場合ノミナラス法律上補償金ヲ受クヘキ者何人ナルヤ容易ニ確知シ難キ場合ヲモ包含スルモノトス從テ同一ノ補償金債權ニ付二箇ノ競合シタル轉付命令アリテ其轉付ヲ受ケタル二人中何レカ法律上正當ニ補償金ヲ受クヘキ者ナルヤ輕ク解決シ難キ場合ハ右第二號ノ規定ニ該當ス

(判決理由) 略

第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所



有者及關係人ニ代ルモノトス

一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ

移轉スルコト能ハサルトキ

二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知ス

ルコト能ハサルトキ

### 一、土地所有者ノ土地物件引渡義務ノ範圍

(行裁昭和五年第三五二號)  
同七年三月二十九日宣告)

(要旨) 起業者カ收用裁決ヲ申請スルニ當リ土地所有者ノシテ被收用者トシテ申請シタル爲メ收用審査會カ土地所有者ノミニ對シ收用ノ裁決ヲ爲スモ右裁決ハ土地所有者ニ於テ關係人ノ有スル借地權ニ對スル補償ヲ爲シ建物ヲ移轉シテ收用地ヲ起業者ニ引渡ス義務ヲ負擔スルノ效果ヲ生スヘキニ非ス

(判決理由) 原告ハ松下菊江、松下萬次郎及寺田コマツハ土地收用法上ノ關係人ナルニ拘ラス起業者カ本件收用ノ裁決ヲ申請スルニ當リテハ右關係人ヲ除外シ原告ノミヲ被收用者トシテ申請シ被告ハ之ヲ是認シ原告ノミニ對シ本件裁決ヲ爲シタルカ爲

ニ原告ニ於テ右關係人ノ有スル借地權ニ對スル補償ヲ爲シ建物ヲ移轉シテ收用地ヲ起業者ニ引渡ス義務ヲ負擔スルコトトナリ從テ本件裁決ハ負擔スヘキ理由ナキ義務ヲ原告ニ負擔セシメ原告ノ權利ヲ侵害スル違法ノモノナル旨主張スルモ假ニ松下菊江外二名ハ關係人ナリトスルモ本件裁決ハ原告ニ對シ同人ノ有スル借地權ニ對スル補償ヲ爲シ建物ヲ移轉シテ收用地ヲ起業者ニ引渡スヘキ義務ヲ負擔セシムルノ效果ヲ生スヘキモノニ非サルヲ以テ此ノ點ニ關スル原告ノ主張モ理由ナシ

### 二、起業者ニ引渡シタル土地ノ返還請求

(一) (大審大正四年(オ)第七七六號)  
同五年二月二十六日言渡)

(要旨) 土地所有者カ有效ナル協議又ハ收用審査會ノ裁決ノ存在ヲ豫想シテ土地ヲ起業者ニ引渡シタル場合ト雖モ後ニ至リ其協議又ハ裁決ノ無効ナルコトヲ發見シ又ハ其協議又ハ裁決カ效力ヲ失ヒタルトキハ土地所有者ハ起業者ヲシテ其土地ヲ返還セシメ之ヲ原狀ニ回復スルノ權利ヲ有スルモノトス

(判決理由) 起業者カ其事業ニ要スル土地ノ所有權ヲ取得スル爲メ換言スレハ土地ノ收用力完全ニ其效力ヲ生スルカ爲ニハ有

效ナル當事者間ノ協議若ハ有效ナル土地收用審査會ノ裁決アルコトヲ要スルヲ以テ當事者間ノ協議カ全然成立セヌ又ハ後ニ至リ無效トナリタルトキ若ハ土地收用審査會ノ裁決カ全然無效ナルカ又ハ土地收用法第六十二條所定ノ如ク後ニ至リ其效力ヲ失ヒタルトキハ其土地ハ法律上收用セラレタルモノニアラサルヲ以テ起業者ニ於テ其所有權ヲ取得スヘキ理由ナク又其土地ヲ占有スヘキ何等ノ權利ヲ有セサルハ明ナリ故ニ土地ノ所有者カ有效ナル協議又ハ土地收用審査會ノ裁決ノ存在ヲ豫想シテ其土地ヲ起業者ニ引渡シタル場合ト雖モ後ニ至リ其協議又ハ裁決ノ無効ナルコトヲ發見シ又ハ其協議又ハ裁決カ後ニ至リ效力ヲ失ヒタルトキハ土地ノ所有者ハ起業者ヲシテ其土地ヲ返還セシメ之ヲ原狀ニ回復スルノ權利ヲ有シ起業者ハ更ニ新ニ有效ナル協議又ハ土地收用審査會ノ裁決ヲ經テ其土地ヲ收用スルコトヲ要ス

(二) (大審 大正五年(オ)第六四一號) 同五年十月十四日言渡)

(要旨) 被收用者ハ裁決ニ依リ定マリタル土地ヲ引渡スヲ以テ足り其レ以上ノ土地ヲ引渡シタルトキハ之カ返還ヲ請求スヘク其ノ損失補償ヲ請求スヘキモノニ非ス

被收用者カ誤テ收用區域以上ニ引渡シタルトキハ被收用者ニ於テ之カ返還請求ノ手段ヲ講スルノ外ナシ

(判決理由) 原判決ノ確定シタル所ニ依レハ本件土地收用審査會ハ被收用地ニ付キ一定ノ區域ヲ定メ其區域内ノ土地カ八十八坪ノ面積ヲ有スルモノナルコトヲ裁決シタルモノニシテ單ニ一反九畝二十六歩ノ内二畝二十八歩ヲ收用セラルヘキ地域ト定メ之カ補償價格ヲ裁決シタルモノニ過キサレハ被收用者タル上告人ハ其裁決ニ因リ定マリタル二畝二十八歩ノ土地ヲ被上告會社ニ引渡スヲ以テ足り其他ノ地積ヲ引渡スノ義務ナシ故ニ若シ上告人ニ於テ誤リテ夫レ以上ノ土地ヲ引渡シタルモノトセハ之カ返還ヲ請求スルヲ得ヘキ筋合ナレハ同土地ヲ收用セラレタルモノトシテ其損失補償ヲ請求スルノ權利ナキモノト云ハサル可ラス然レハ右ト同一理由ノ下ニ上告人ノ増地二坪ニ對スル補償ノ請求ヲ棄却シタル原判決ハ正當ニシテ論旨ハ理由ナシ前段説明ノ如ク上告人ハ收用審査會ニ於テ裁決セラレタル以上ノ土地ヲ引渡ス義務ナキヲ以テ上告人カ之ヲ被上告人ニ引渡シタリトセハ遺ハ引渡ス要ナキ土地ヲ誤リテ引渡シタルモノト推定スヘキカ故ニ上告人ハ之カ返還ヲ請求スル手段ヲ講スルノ外ナシ所論原判決ノ説明ハ即チ此趣旨ニ外ナラサルヲ以テ本論旨モ亦理由ナシ

(三) (大審 大正四年(オ)第七七六號) 同五年二月二十六日言渡)

(要旨) 土地所有者カ起業者ニ對シテ土地ノ返還ヲ請求シ

因テ以テ原狀回復ノ目的ヲ達スルニハ土地返還カ事實上法律上共ニ可能ナルコトヲ必要トシ其返還カ不能トナリタルトキハ不當利得又ハ不法行爲ノ原則ニ基キ利得ノ返還又ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ要シ原狀回復ノ方法ニ依リ其返還ヲ請求スルコトヲ得ス

(判決理由) 土地所有者カ起業者ニ對シテ土地返還ヲ請求シ因テ以テ原狀回復ノ目的ヲ達スルニハ土地ノ返還カ事實上法律上共ニ尙ホ可能ナルコトヲ必要トシ其返還カ不能トナリタルトキハ不當利得又ハ不法行爲ノ原則ニ基キ利得ノ返還又ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ要シ原狀回復ノ方法ニ依リテ其返還ヲ請求スルコトヲ得ス起業者ノ占有ニ歸シタル土地ニ鐵道其他ノ建造物ヲ築造シタルカ如キ場合ハ其一ニシテ其土地カ道路公園其他公ノ營造物ニ變シタル場合ハ他ノ一ナリ何トナレハ前者ニ在リテハ其鐵道建設物ヲ破壞シ起業者ヲシテ多大ノ損害ヲ被ラシメ延テ公益事業ニ損害ヲ及ホスハ社會觀念ニ於テ許ササル所ニシテ後者ニ在リテハ其土地カ現ニ公ノ營造物ニ變シ法律上融通性ヲ失ヒタル以上ハ起業者ニ於テ之ヲ土地所有者ニ返還スヘキ手段方法ヲ有セサルヲ以テナリ而シテ請求ノ目的タル土地ノ返還カ可能ナルヤ否ヤヲ定ムルニハ裁判所ノ口頭辯論終結ノ際ニ於

ケル狀態ヲ基本トスルコトヲ要シ將來ニ於テ其土地ノ返還カ可能ナリヤ否ヤハ請求ノ目的トシテ土地返還ノ能否ヲ定ムルノ標準タルコトヲ得サルヲ以テ口頭辯論終結時ニ於テ現ニ公ノ營造物タル土地ノ返還ヲ目的トスル請求ハ不能ノ事項ヲ目的トスル請求タルヲ免レサルモノトス從テ其土地ノ返還ヲ請求スルコトハ不法ナルヲ以テ上告論旨ハ此ノ點ニ於テ理由アリ

(四)

(大審大正七年(オ)第三一〇號)  
同八年二月七日言渡)

(要旨) 土地收用法ニ依リ收用シタル土地ヲ公ノ營造物ト爲シタルトキハ其所有權ハ公法上ノ所有權トナリ國家又ハ公法人ニ歸屬シ法律上融通性ヲ失フニ至ルヲ以テ公用ヲ廢止スル迄ハ之ヲ原所有者ニ返還スルヲ得ス

(判決理由) 原院ハ係争地ハ未ダ公園設置事業ニ付キ不用ト爲リタルニアラサルヲ以テ上告人ニ買戻權發生セスト爲シタルモノナレハ上告人ノ本訴請求ハ原判決理由末段ノ説明ヲ俟タスシテ不當ナルコト明ナリ假リニ原判決ニ認定シタル事實ニ依レハ係争地ハ一旦不用トナリ上告人ニ買戻權發生シタルモノト論セサルヲ得サルモノトスルモ土地收用法ニ依リ收用シタル土地ヲ公ノ營造物ト爲シタルトキハ其所有權ハ公法上ノ所有權トナリ國家又ハ公法人ニ歸屬シ法律上融通性ヲ失フニ至ルヲ以テ公用

ヲ廢止スル迄ハ之ヲ原所有者ニ返還スルコトヲ得サルコトハ當院ノ判例トスル所ナレハ（大正四年（オ）第七百七十六號大正五年二月十六日言渡當院判例參照）原院カ係争地ノ明治四十四年四月公園トナリ現ニ公園タルコトヲ認定シタル以上ハ被上告人ハ其所有權ヲ上告人ニ返還スルコト能ハサルヲ以テ上告人ノ本訴請求ハ不當ニシテ原判決理由未段ノ説明ハ相當ナリトス又係争地カ公ノ營造物トナリタル以上ハ何レノ部分モ融通性ヲ失ヘルヲ以テ上告人ニ對シ其地盤ノミ返還スルコトヲ得サルコト明ナリ故ニ地盤ノ所有權ヲ取戻シ得ヘシトスル上告人ノ所論ハ理由ナシ尙ホ上告人ハ被上告人ハ係争地ノ公園タルコトヲ廢止シ其不融通性ヲ解除スヘキ義務アリト論スレトモ上告人ハ原審ニ於テ斯カル主張ヲ爲ササリシモノナレハ原院カ此點ニ付キ判斷ヲ爲ササリシハ相當ナリ

第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス

一、裁決ノ失効ニ因ル再度ノ裁決

（行裁昭和三年第一一八號）  
同四年七月十八日宣告

（要旨）或ル權利ニ付收用ノ裁決アリタルモ該裁決カ土地收用法第六十二條ニ依リ效力ヲ失ヒタルトキ更ニ新ナル收用裁決ノ申請ニ基キ該權利收用ノ裁決ヲ爲スハ違法ニ非ス

（判決理由）原告ハ本件土地ニ付テハ既ニ大正十五年ニ於テ參加人カ本件ノ場合ト同一理由ニ依リ被告ノ裁決ヲ申請シ被告ハ昭和二年九月一日附ヲ以テ裁決ヲ與ヘタリ然ルニ參加人ハ收用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササリシ爲裁決ハ其效力ヲ失ヒタルヲ以テ更ニ同一目的物ニ對シテ其ノ内容ヲ異ニスル本件裁決ヲ與ヘタルハ一事不再理ノ原則ニ反シ違法ナリト主張スルモ收用審査會ノ裁決カ補償ノ拂渡又ハ供託ヲ爲ササリシ爲ノ其效力ヲ失ヒタルトキハ更ニ新ナル收用ノ裁決ニ基キ裁決ヲ爲スハ違法ニ非ス

二、裁決ノ失効ニ因ル收用地ノ返還請求

（大審大正四年（オ）第七七六號）  
同五年二月二十六日言渡

（前條資料ニ參照）

三、本條ニ依ル裁決ノ無效確認ヲ求ムル

行政訴訟

（行裁大正十五年第二六九號）  
同十五年十月七日裁決

(要旨) 土地收用法第六十二條ニ依ル土地收用裁決ノ無效  
確認ニ付法律勅令中行政訴訟ノ提起ヲ許シタル規定ナシ

(裁決理由) 略

第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ  
所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス  
土地ヲ使用スルトキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ起業  
者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止  
セラル但シ使用ヲ妨ケサルモノハ此ノ限ニ在ラス

一、本條第一項ノ法意

(大審明治四十年(オ)第一三八號)  
同四十年五月十五日言渡

(要旨) 土地收用法第六十三條第一項ハ收用ノ效果ヲ規定  
シタルモノニシテ土地ノ所有權ハ起業者之ヲ取得スルト同  
時ニ舊所有者ハ其ノ權利ヲ喪失シ地上權抵當權等ノ如キ其  
ノ他ノ權利モ亦之ト共ニ消滅シ爾後所有者ナル起業者ニ對  
シ之ヲ行使スルコトヲ得サル法意ニ外ナラス

(判決理由) 按スルニ土地收用法第六十三條ニ「所有權ハ起業  
者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス」トアルハ收用ノ效果ヲ規

定シタルモノニシテ土地ノ所有權ハ起業者之ヲ取得スルト同時  
ニ舊所有者ハ其ノ權利ヲ喪失シ其ノ他ノ權利(地上權抵當權等)  
モ亦之ト共ニ消滅シ爾後新所有者タル起業者ニ對シ行使スルコ  
トヲ得サル法意ニ外ナラス然レハ土地ノ所有權カ收用ノ瞬間ニ  
於テ一旦國ニ歸屬スル謂ハレナキコト勿論ナリ而シテ該效果ハ  
收用ノ方法カ起業者ト土地所有者及關係人トノ協議ニ因ルト審  
査會ノ裁決ニ因ルトニ從ヒ異ルコトナク又舊所有者カ同法第六  
十六條第六十七條ニ依リ補償價格ヲ以テ收用土地ヲ買受クル規  
定ト抵觸スルコトナシ

二、形式上ノ所有者ニ對スル收用ノ效果

(大審明治四十年(オ)第一三八號)  
同四十年五月十五日言渡

(要旨) 形式上所有者ト看做スヘキ者ニ對スル審査會ノ裁  
決カ形式的確定力ヲ生スルトキハ起業者ハ完全ニ所有權ヲ  
取得スルモノトス

(判決理由) 按スルニ土地收用法第八十一條第八十二條ニ依リ  
訴願又ハ出訴ヲ爲スコトヲ得ル者ハ被收用者トシテ指定セラレ  
裁決ヲ受ケタル者タルヘキハ上告人所論ノ如クナルヲ以テ其裁  
決ヲ受ケタル者ニ對シ裁決カ形式的確定力ヲ生スルトキハ即チ  
起業者カ土地ノ所有權ヲ取得スルモノナリ故ニ原判決カ上告人

ハ裁決ヲ受ケサルニ拘ラス裁決ノ形式上大串勝次カ對手トセラレタルコトヲ認メ被上告會社ハ本訴關係地所ニ對シ完全ニ所有權ヲ取得シタルモノト爲シタルハ本論旨ノ如キ不法アルモノニアラス。

註、前出第五條資料九、第二十二條資料二三、第六十條

資料四參照

### 三、裁決ノ取消ト所有權ノ移轉

(内務明治四十年十二月東丙第二五二號)  
東京府知事宛土木局長通牒

(要旨) 起業者ハ收用審査會ノ裁決ニ依リ定メラレタル收用ノ時期ニ於テ收用地ノ所有權ヲ取得スルモノナレハ該裁決ニシテ取消サレタルニ於テハ其ノ所有權ヲ取得スルヲ得サルモノトス

(原文) 東京瓦斯株式會社取締役社長ヨリ別紙ノ通何出有之候處土地收用地ノ所有權ハ收用審査會ノ裁決ニ依リ定メラレタル收用ノ時期ニ於テ之ヲ取得スルモノナレハ該裁決ニシテ取消サレタルニ於テハ其所有權ハ之ヲ取得スルヲ得サルモノニ有之候條此旨何人へ御指示方可然御取計相成度此段申進候也

(東京瓦斯株式會社伺) 土地收用ノ件ニ付明治四十一年一月二十九日附當會社ノ申請ニ基キ同年四月二十日東京府收用審査會

ノ爲シタル裁決ハ其ノ審査不備ナル理由ノ下ニ明治四十一年十一月六日貴會ニ於テ御取消ノ處分相成候處當會社ハ土地收用法第六十三條ニ依リ完全ニ收用地ノ所有權ヲ取得致居候得ハ右取消處分ノ效果ハ單ニ收用審査會ノ裁決ヲ無効ナラシムルニ留リ當會社ノ取得セル權利ニ影響ヲ及ホササル義ト心得任意ニ計畫ヲ遂行可然哉

右御伺候也

### 四、收用ニ因ル所有權移轉ノ登記ノ目的

(大審明治三十八年(オ)第七八號)  
同三十八年四月二十四日言渡

(要旨) 土地收用法ニ依リ土地ノ所有權ヲ取得シタル者ハ不動産登記法第百三條ニ從ヒ登記スヘキモノナリト雖モ其ノ效力ハ起業者被收用者間ニ生セシムルニ非スシテ其ノ以外ノ者ニ對スル爲ニ外ナラス

(決定理由) 土地收用法ニ依リ土地ノ所有權ヲ取得シタル者ハ不動産登記法第百三條ニ從ヒ登記スヘキモノナリト雖モ其效果ハ起業者舊所有者及ヒ從來其ノ土地ニ付權利ヲ有シタル者(關係人)ノ間ニ生セシムルニ非スシテ其以外ノ者ニ對スル爲ニ外ナラス何トナレハ土地收用法第二十二條ニ依リ以上ノ者ハ協議ノ當事者ナルカ故ニ是等ノ間ニ登記ヲ以テ所有權移轉ノ公告方

法ト爲スヘキ必要アラサレハナリ本件ニ於テ原院ノ確定シタル所ニ依レハ上告人ハ本件土地ノ舊所有者ヨリ被上告會社ニ本件土地ノ所有權ヲ移轉スルニ付協議ヲ爲ス際抵當權者トシテ之ニ關係シタルハ上告人及ヒ舊所有者間ニ在リテハ同法第六十三條ニ從ヒ協議ニ依リ土地所有權ハ被上告會社ニ移轉シ上告人カ從來其土地ニ有セシ抵當權ハ消滅シタルモノナレハ爾後上告人ハ抵當權者トシテ之ヲ競賣ニ付セシムルコトヲ得ス又其競賣ニ依リ形式上所有權ヲ取得シタリトモ是ハ無效ナレハ被上告人ニ對シ之カ主張ヲ爲シ得サルモノトス

### 五、收用セラレタル土地ノ分割並

#### 土地臺帳ノ更正

(內務大正三年九月十日發土第ニ六號各地方長官、各土木出張所長宛土木局長通牒)

(原文) 一筆ノ土地ノ一部カ河川法ニ依リ河川ノ敷地ニ認定セラレ又ハ土地收用法ニ依リ收用セラレタル場合ニ於テ前者ニ在リテハ官廳ヨリ丈量圖ヲ添へ後者ニ在リテハ業者ヨリ補償金受取證又ハ供託受領證及土地ノ測量圖(測量圖ノ分界ハ當該道府縣ノ認定證ヲ受クルヲ要ス)ヲ添へ土地臺帳所管廳ニ通知又ハ届出ヲ爲ストキハ分割手續ヲ爲シ又河川敷地又ハ收用地ニ關シ證憑ヲ具シ官廳又ハ起業者ヨリ臺帳ノ訂正ヲ請求スルトキハ

法 令

之ニ依リ處理シ可然旨大藏省主稅局長ヨリ稅務監督局長へ通牒セル旨通知有之候條御了知相成度

### 六、競賣手續開始決定ト土地ノ一部ノ收用

(大審昭和十年(ク)第五七七號) 同十年五月四日決定)

(要旨) 競賣手續開始決定後其ノ目的タル土地ノ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラレタルトキハ其ノ收用セラレタル部分ニ對スル開始決定ハ之ヲ取消スヘキモノナルモ殘餘ノ部分ニ對スル手續ハ之ヲ取消スヘキモノニ非ス

#### (決定理由)

按スルニ原審認定ノ如ク本件不動産中佐賀市水ヶ江町宇中田江小路二百五十三番宅地千六百四十坪五合一勺カ本件競賣手續開始決定後土地收用ニ依リ分割セラレ同所二百五十三番ノ二宅地百二十一坪八合四勺ト爾餘ノ部分ノ二筆トナリ前者カ國ノ所有ニ歸シタルモノナル以上千六百四十坪五合一勺ノ土地ノ表示ハ之ヲ右二筆ノ各表示ニ更正シテ該開始決定中國ノ所有ニ歸シタル其ノ一筆ニ對スル部分ハ之ヲ取消スヘキモノナルモ他ノ右一筆ニ對スル部分ハ之ヲ取消スヘキ理由アルモノト云フヲ得サルニ拘ラス原審カ右更正ノ手續ヲ經シテ千六百四十坪五合一勺ニ對スル部分全部ノ取消ヲ爲シタルハ違法ナリト云フヘク本件抗告ハ理由アリ

第六十四條 收用審査會ノ裁決ノ後收用又ハ使用スベキ土地物件カ土地所有者又ハ關係人ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ滅失又ハ毀損ハ起業者ノ負擔ニ歸ス

第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

一、本條ニ依ル補償金ノ差押ト債權者ノ順位

(大審大正三年(オ)第八五三號  
同四年六月三十日言渡)

(要旨) 土地收用法第六十五條ノ規定ハ民法第三百四條ニ規定スル物上代位ノ原則ノ適用ヲ示シタルモノニシテ同條ニ依ル補償金ノ差押ハ補償金カ擔保物ヲ代表スルノ特定性ヲ保全シ債權者ヲシテ補償金上ニ有スル優先權ヲ喪失セザラシムルニ在リテ必スシモ優先權者自ラ爲シタルモノナルコトヲ必要トセス

從テ苟モ差押アルニ於テハ補償金ハ優先權ノ目的トシテ保

存セラルヘク劣等順位ノ物上擔保權ナキ債權者カ優先權者ニ先タチ補償金ノ差押ヲ爲シタル場合ニ轉付命令ヲ受クルコトアルモ其轉付命令ハ優先權者カ補償金ニ對シテ優先權ヲ行使スルノ妨トナラサルモノトス

(判決理由) 按スルニ土地收用法第六十五條ニ「先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ」トアリテ物上擔保權ヲ有スル債權者カ擔保物ヲ代表スル補償金ニ對シテ擔保權ヲ行使スルニハ其拂渡前ニ之カ差押ヲ爲スコトヲ要スト爲シタル所以ハ民法第三百四條ニ規定スル物上代位ノ原則ノ適用ヲ示シタルニ外ナラスシテ補償金カ擔保物ヲ代表スルノ特定性ヲ保全スルト同時ニ被收用者タル債務者カ補償金ヲ處分シ收用者タル第三債務者カ補償金ヲ債務者ニ支拂フコトヲ禁シ以テ債權者ヲシテ補償金上ニ有スル優先權ヲ喪失セザラシムルニ在リ差押ノ性質斯ノ如クナルヲ以テ優先權者自ラ差押ヲ爲シタル場合ハ勿論縱令然ラスシテ劣等順位ノ物上擔保權ヲ有スル債權者又ハ物上擔保權ナキ債權者カ差押ヲ爲シタル場合ト雖モ苟モ差押アルニ於テハ補償金ハ優先權ノ目的トシテ保全セラルヘク差押ヲ爲シタル劣等順位ノ物上擔保權



ヲ有スル債權者又ハ擔保權ナキ債權者モ亦補償義務者ト同シク  
優先權ノ效力ヲ受ケサルヘカラサルヲ以テ此等差押ヲ爲シタル  
債權者ハ優先權者ニ先ダチ差押ヲ爲シタルノ故ヲ以テ補償金ニ  
付キ取立ヲ爲シ又ハ轉付ヲ受ケテ優先權者ノ權利ヲ害スルコト  
ヲ得ス從テ劣等順位ノ物上擔保權ヲ有スル債權者又ハ物上擔保  
權ナキ債務者カ優先權者ニ先ダチテ補償金ノ差押ヲ爲シタル場  
合ニ轉付命令ヲ受クルコトアルモ其轉付命令ハ優先權者ヲ害ス  
ル範圍内ニ於テハ效力ヲ生セサルカ故ニ其轉付命令ハ優先權者  
カ補償金ニ對シテ優先權ヲ行使スルノ妨トナラサルモノトス此  
等ノ法理ハ鑛業法第六十九條ノ物上代位ニ關シ當院大正三年  
(オ)第九十六號事件ニ付キ大正四年三月六日爲シタル判決ニ於  
テ詳ニ判示シタル所ニ異ラス

## 二、鑛業法第六十九條ニ依ル補償金ノ

### 差押ト債權者ノ順位

(大審大正三年(オ)第九十六號)  
同四年三月六日言渡)

(要旨) 鑛業法第六十九條ノ規定ハ民法第三百四條ニ規定  
スル物上代位ノ原則ノ適用ヲ示シタルモノニシテ同條ニ依  
ル補償金ノ差押ハ其特定性ト消滅ノ防止トヲ目的トスルモ  
ノナレハ優先權者自ラ爲シタルモノナルコトヲ必要トセス

劣等順位ノ擔保權者又ハ普通債權者カ差押ヲ爲シタル場合  
ト雖モ其差押債權者ハ優先權者ノ權利ヲ無視シテ取立ヲ爲  
シ又ハ轉付ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

第三債務者カ優先權者ノ差押前差押債權者ニ對シ辨濟シタ  
ルトキハ優先權者ノ權利ノ目的物ハ之ニ因リ消滅スルヲ以  
テ優先權者ハ差押債權者ニ對シテ其返還ヲ請求スルノ外ナ  
キモノトス

(判決理由) 按スルニ鑛業法第六十九條ノ規定ハ民法第三百四  
條ニ規定スル物上代位ノ原則ノ適用ヲ示シタルモノニシテ物上  
擔保ヲ有スル債權者カ擔保物ヲ代表スル補償金ニ對シテ其權利  
ヲ行使スルニハ其渡前ニ之カ差押ヲ爲スコトヲ要スルハ民法第  
三百四條ニ於ケルト同一ナリ蓋シ此場ニ於ケル差押ハ被收用者  
タル債權者ニ對シテ補償金ノ處分ヲ禁止收用者タル第三債務者  
カ辨濟其他ノ方法ニ依リ之カ請求權ヲ消滅セシメ債權者ヲシテ  
代表物タル補償金ノ上ニ有スル優先權ヲ喪失セシムルノ結果ヲ  
豫防スルヲ以テ唯一ノ目的トスルモノニシテ優先權ノ目的タル  
補償金ハ差押ノ處分ニ依リ完全ニ保存セラレ優先權者ハ之ニ依  
リテ其權利ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ何トナレハ補償金ニ對  
スル差押ハ一面其代表物タル特定性ヲ保全スルト同時ニ他ノ一

面ニ於テ其消滅ヲ防止シ以テ優先權者ヲシテ補償金上ニ其權利ヲ行使スルコトヲ得セシムルモノナレハナリ如上差押ノ性質ニシテ既ニ斯ノ如クナリトセハ優先權者カ自身差押ヲ爲シタル場合ハ勿論劣等ノ順位ヲ有スル物上擔保權者ハ物上擔保ヲ有セサル債權者カ補償金ノ差押ヲ爲シタル場合ト雖モ其補償金ハ優先權ノ目的トシテ保存セラルヘキ筋合ニシテ優先權アル債權者ハ之ニ對シテ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘク自己カ先シテ之カ差押ヲ爲ササリシコトハ其優先權ヲ行使スルノ妨トナルコトナシ換言スレハ順位ノ劣等ナル優先權者又ハ普通債權者ハ優先權ヲ有スル債權者ニ先タチテ補償金ノ差押ヲ爲シタルヲ理由トシテ其優先權ヲ否定シ優先權者ヲ無視シテ之カ取立ヲ爲シ又ハ取立ニ代ヘ券面額ニテ之ヲ自己ニ轉付セシメ優先權者ノ權利ヲ架空ナラシムルコトヲ得ヌ却テ此ノ場合ニ於テモ優先權者ノ權利ヲ尊重シ之ヲシテ其ノ優先權ノ順位ニ從ヒ満足ヲ得セシメ尙ホ剩餘アル場合ニアラサレハ其債權ノ取者ヲ爲シ又ハ之カ轉付ヲ爲サシムルコトヲ得サルモノトス故ニ順位ノ劣等ナル優先權者又ハ普通債權者カ優先權ヲ有スル債權者ニ先タチテ補償金ノ差押ヲ爲シタル場合ト雖モ優先權者ヲ無視シテ補償金ノ轉付ヲ受クルノ所爲ハ優先權者ノ權利ヲ害スルモノニシテ其轉付命令ハ優先權者ニ對シテ效力ヲ有セサルヲ以テ優先權者ハ尙ホ其補償

金ニ對シテ優先權ヲ主張スルコトヲ得ヘシ蓋シ此場合ニ於テモ優先權ノ目的タル補償金ハ尙ホ代表物タル特定性ヲ有シ優先權ノ行使ヲ可能ナラシムルヲ以テナリ但第三債務者カ優先權者ヨリ差押ヲ受クルノ前差押債權者ニ對シ辨濟ヲ爲シタルトキハ其辨濟ハ有效ナルヲ以テ優先權者ノ權利ノ目的物ハ茲ニ消滅ニ歸シ第三債務者ハ更ニ優先權者ニ對シテ支配ヲ爲スノ義務ナク優先權者ハ其權利ヲ害シテ支拂ヲ受ケタル差押債權者ニ對シテ其返還ヲ請求スルノ權利ヲ有スルニ過キサスルモノトス

巴 藤

行々子汐さしくれば蘆に泡

胞衣塚に畫顔の蔓からみたり

夏草や首塚の文字讀み惱む